

## 国際関連情報 Report from IFRS-AC

# IFRS-AC 会議 (2013年2月) 出席報告

公益社団法人日本証券アナリスト協会 参与・教育第二企画部長 **金子 誠一** かねこ せいいち

2月25日、26日の両日、ロンドンにおいて開催されたIFRS財団のIFRS諮問会議(IFRS-AC)\*の概要について下記のとおり報告する。

\* 国際会計基準審議会(IASB)に対し、検討事項やその優先順位をアドバイスするための組織。従来は基準諮問会議(SAC)と呼ばれていたが、2010年4月に名称変更した。委員は45名強。日本からは証券アナリスト

協会代表の筆者(金子)に加え、経団連代表の村岡富美雄(株)東芝取締役監査委員会委員長が委員。他に金融庁がオブザーバー(発言権あり)で参加。IFRS-AC会議は年に3回、ロンドンで開催される。今回、金融庁からは水見野良三審議官および園田周企業開示課課長補佐が出席。

## 1. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	25日 9:00- 9:30	開会
(2)	同 9:30-10:30	IASBの活動報告
(3)	同 10:45-11:30	トラスティの活動報告
(4)	同 11:30-12:00	モニタリング・ボードの活動報告
(5)	同 13:15-16:15	ASAFについて(説明・分科会・全体会議)
(6)	同 16:15-17:15	リサーチ
(7)	26日 9:00- 9:30	デュープロセス・ハンドブック
(8)	同 9:30-10:25	XBRL
(9)	同 10:25-11:00	IFRSの世界での適用
(10)	同 11:00-13:30	ディスクロージャー

(11)	同	13:30-14:10	IFRS 第9号
(12)	同	14:30-15:00	まとめ・閉会

\* 会議資料および録音は下記から入手できる。  
<http://www.ifrs.org/Meetings/Pages/AC-Feb12.aspx>

## 2. 議事概要

上記議事一覧に従い、日本からの参加者の発言要旨にも触れながら議事概要を紹介する。

### (2) IASB の活動報告

Hoogervorst IASB 議長および IASB スタッフより最近の基準開発動向について説明があった。保険については、慎重な対応を求める業界出身委員のコメントに対し、Hoogervorst 議長は、わが国の長期的な低金利にも触れながら、検討を開始してから 10 年以上経っているのに基準ができないのは恥ずかしいとしていた。

欧州財務報告諮問グループ (EFRAG) 出身の委員が、収益認識について Review Draft を出して欲しいと強く主張し、欧州出身の委員を中心に複数の賛同意見があった。Review Draft とは、実際の会計基準案に大きな間違いがないかどうか確認するために、関係者に読んでもらう手続を指し、IASB の Due Process 上の必須事項ではないが大きな基準の場合には行われることがある。この要望に対し、IASB は時間の制約を理由に難色を示し、委員の中にも不要とする意見もあり、収益認識についての Review Draft は見送りとなった。

金融商品の減損について、米国財務会計基準審議会 (FASB) 案とのコンバージェンスを図って欲しいという意見があった。Hooger-

vorst 議長は、公開草案へのコメント期間を一部同期化することによって、コンバージェンスの余地を残してあるが、金融規制当局からは、完全なコンバージェンス抜きでも早く基準にして欲しいという圧力があると説明していた。

### (3) トラスティーの活動報告

Prada IFRS 財団トラスティー議長から活動内容の報告があった。各国の IFRS への取り組みを評価する中で、中国についてはほぼ IFRS を採用とする一方、日本については、前向きではあるが複雑な状況としていた。米国については、コンバージェンスが終了する中で、次の方向を模索している段階と説明していた。また、IFRS 財団は米国の拠出不足もあり、このままだと資金不足になる見込みで、対策を講じているとの報告があった。

### (4) IFRS 財団モニタリング・ボードの活動報告

金融庁の園田課長補佐よりモニタリング・ボードについて、①暫定議長を務めてきた河野金融庁国際政策統括官が 2 年間の任期で正式議長に就任した、②モニタリング・ボード・メンバーの資格要件である「IFRS の使用」の定義について合意し近くプレスリリースする、との報告があった<sup>1</sup>。

1 プレスリリース (3 月 1 日) は下記から入手できる。  
[http://www.iosco.org/monitoring\\_board/pdf/Press20130301-1.pdf](http://www.iosco.org/monitoring_board/pdf/Press20130301-1.pdf)

#### (5) ASAFについて

今回の会議では会計基準アドバイザー・フォーラム（ASAF：Accounting Standards Advisory Forum）について、小グループに分かれての検討を含め最も時間を使って議論した。結論としては、ASAFの創設を支持する意見がコンセンサスであった。一部にIFRS諮問会議とASAFの住み分けについての懸念もあったが、Hoogervorst IASB議長がASAF議長も務めるので問題は生じないだろうというのが大勢の見方であった。Hoogervorst議長は「新しい組織を作ると、既存の組織は嫉妬するものだが、それがなくて嬉しい」と述べて微笑を誘っていた。

#### (6) リサーチ

IASBは基準開発の迅速化等を目的に、リサーチ機能の充実化を図ろうとしており、IASBのスタッフから計画の概要について説明があった。コストとベネフィットについて、どう考えるのかという質問があり、スタッフは効果分析を行って検証すると答えていた。

#### (7) デュープロセス・ハンドブック

最近改訂されたデュープロセス・ハンドブックの概要についてスタッフから説明があった。Hoogervorst議長からデュープロセスの規定がIASBの基準開発の障害になっていることはないとの補足があった。

#### (8) XBRL

IASBのXBRLタクソノミー等への取り組みについてスタッフから説明があった。XBRLについては立場による意見の相違が大きくさまざまなコメントがあり、今後も継続して検討することとした。日本はXBRL活用の先進国であ

り、氷見野審議官から日本基準のみならずIFRSベースのタクソノミーも適用済みであり、EDINETタクソノミーとしては、MD&A（Management's Discussion and Analysis、経営者による業績評価・分析）等へのXBRLの適用の準備を進めているとの説明があった。

#### (9) IFRSの世界での適用

IFRS財団は各国の基準設定主体等を対象にIFRSの採用状況等について実態調査を行い、その結果の説明があった。カーブアウトの詳細等について、より細かな分析をしてほしいとの要望があったが、Hoogervorst議長は分析の掘り下げは今後の課題としていた。

#### (10) ディスクロージャー

EFRAGのスタッフから、EFRAGが発行したディスクロージャーに関する討議資料へのコメントの紹介、IASBスタッフから1月に開催されていたディスクロージャー・フォーラムに関する報告があった。ディスクロージャーについては重要性の原則の適用方法、MD&Aとの住み分けが重要であるという見方が強かった。これに対し、IASBのスタッフは短期的には財務諸表と注記との整理に集中し、MD&Aとの関連は長期的に取り組みたいと述べていた。

#### (11) IFRS第9号

IASBは保険の会計基準等への対応を目的にFVOCIと呼ばれる新たな金融商品評価区分を設定する意向であり、スタッフから概要説明があった。一部の委員から旧来の売却可能有価証券と似ていて混乱を招くという懸念が表明された。また、金融商品会計全般についてFASBとのコンバージェンスをして欲しいという要望もあった。